

<今日の説教のポイント 創世記 45 章 9～46 章 27 節>

皆苦しんだ。しかし終わってみれば…。新しい展開の始まりのために！

①ヨセフ物語を総括すると — 皆、苦しみの中に。しかし…！

創世記はまだ続きますが、今日の箇所では一つの終わりを迎えます。最後のヨセフ物語はどんな話だったのでしょうか？ 考えてみると、主要な登場人物ヨセフ、その兄弟たち、父ヤコブ、皆が長期に亘る苦しみの中に置かれる話でした。しかし、今日の箇所は赦しと喜びと希望に満ちています。すなわち、ヨセフの赦し(45:9-15)、ファラオの受け入れ(45:16-20)、豊かな贈り物(45:21-24)、ヤコブの歓喜(45:25-46:4)、希望あるエジプト行き(46:5-7)。これら全ては、これまでの苦しみが全て意味を持って覚えられる中に置かれたことを示しています。しかしそれは、たまたま全てがうまくいってこうなったというのではないのです。

②神様の約束は果たされる！ — 人間の罪の業を超えて

ヨセフ物語では特に「神」が出て来る所が重要だとお話しして来ましたが、今日の箇所では神様がヤコブに直接語られています、「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトへ下ることを恐れてはならない。わたしはあなたをそこで大いなる国民にする。わたしがあなたと共にエジプトへ下り、わたしがあなたを必ず連れ戻す。ヨセフがあなたのまぶたを閉じてくれるであろう。」(46:3-4)。これは、ヨセフが自分の苦難の人生の意味を理解した内容と一致しています(45:4-8)。父祖アブラハムに告げられた神様の言葉をヨセフは信じ続けていたのであり、それは正しかったのです！

③なぜヤコブに告げられたか？ — 神様は柔軟に約束を堅持される神

ヤコブは、神様がかつて約束して下さって与えられた土地を離れることを恐れていたのではないのでしょうか？(12:1) しかし、神様は告げられたのです、「エジプトへ下ることを恐れてはならない。…わたしがあなたを必ず連れ戻す」(46:3-4)。私たちも、神様を信じると言いながら、結局、自分が「神様の御旨はここにあるのだ」と思い込んだ内容に固執している場合があります。そんな時は自分が神になっています。私たちも、神様の招きを受け入れたなら、「神様はどんな時にも必ず私と共にいて、最後のゴールまで導いて下さるのだ」と信じて、他者に対する赦しと希望を常に持ち続けて歩める柔軟さを身に着けたいものです。